

岩手県立図書館 4階に整備する多目的スペースについて

1 呼称

「**I-ルーム**」とする。

4階スペースの整備は、東日本大震災津波からの復興や防災を含む今日的な課題について、児童生徒やグループによる学び**合い**の場とすることが第一の目的である。

また、利用者が、県政課題等をテーマとする展示と参考資料に出**会い**、課題解決に有益な情報（information）や進むべき方向性を示す指標・指針（index）を得る場を提供することによって、当館が、混とんとする現代社会において、希望に満ちた岩手県（Iwate Prefecture）の創造につながる拠点でありたい。

2 用途

(1) 復興教育の支援

本県独自の教育活動である「いわての復興教育」の推進において、3つの教育的価値と具体の21項目に取り組むに当たり、様々な分野の資料（図書、新聞、雑誌、視聴覚）を一括して利用できる環境を提供する。

その場合、近接するミニシアターを利用し、有識者による講義や映像資料を視聴することも可能とする。

学習する中で出された探求を深めたい事項については、レファレンス（調べもの相談）機能を駆使して新たな情報を提供し、又は参考資料を提示する。

(2) グループ学習の支援

興味・関心や能力などを考慮して編成されたグループの学習活動において、意見交換や協同作業によって共通目的の達成を目指すに当たり、テーマに応じた資料（図書、新聞、雑誌、視聴覚）を一括して利用できる環境を提供する。

その場合、近接するミニシアターを利用し、有識者による講義や映像資料を視聴することも可能とする。

学習する中で出された探求を深めたい事項については、レファレンス（調べもの相談）機能を駆使して新たな情報を提供し、又は参考資料を提示する。

(3) 今日的課題に関する展示（県民計画等への対応）

取り上げるべきテーマとしては、これまで取り組まれてきた課題も多いと考えられるが、混とんとする現代社会においては、「持続可能な発展」という視点から、人としてより良く生きる上で大切なものを学ぶ姿勢が強く求められている。

その上で、県民、企業、NPO、市町村など地域社会を構成するあらゆる主体が、それぞれ主体性を持って共に支え合いながら、地方の暮らしや仕事など岩手県の将来像を描き、その実現に向けて、みんなで行動していくことが大切である。

具体的な今日的課題としては、平成31年3月に岩手県が策定し、公表した『いわて県民計画（2019～2028）』であれば、主観的幸福感に関する12の領域を基に設定された次の10の政策分野が大枠となり得る。

- I 健康・余暇
- II 家族・子育て
- III 教育
- IV 居住環境・コミュニティ
- V 安全
- VI 仕事・収入
- VII 歴史・文化
- VIII 自然環境
- IX 社会基盤
- X 参画

については、これらの分野において様々な取組を推進している本庁各室課や、関係機関・団体と緊密な連携を図り、コロナ禍前の実績で年間延べ約40万人が利用する当館を拠点に県民の意識啓発や課題解決が期待できるとの認識を共有の上、計画的な展示を実施する。

また、当館は、東日本大震災津波伝承館「いわて TSUNAMI メモリアル」（陸前高田市）のサテライト的な役割を果たすべきことを自覚し、同館による企画展示物を借用しての展示を実施する。

(4) 図書館主催講演会等の開催（指定管理者の自主事業）

指定管理者が、企画展示コーナーに関連した講演会等を自主事業として開催し、当該テーマに関する利用者の理解が深まるよう支援するとともに、当館の新たな可能性の認知度向上を推進する。

3 運営上の注意点

上記2の(3)の展示に当たっては、窓際に加えてフロア中央部の利用も想定されるが、(1)及び(2)の実施を優先し、必要に応じてレイアウトや日程の変更を柔軟に行うものとする。